

MF-Tokyo 2013

プレス・板金・フォーミング展

特別協賛団体からのメッセージ

先端技術情報の交換の場

「MF Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」が、このたび盛大に開催されます。ことに、日本塑性加工学会を代表して、お喜び申し上げます。また、特別協賛団体として企画に参加させていただき、厚くお礼を申し上げます。

近年、アジアをはじめとした工業新興国の力がどんどん大きくなり、プレス・板金・フォーミング分野では国際競争が一層激しくなっています。わが国には引き続き世界のモノづくり技術をリードしていく使命と力があります。本展示会はわが国のモノづくりのための先端技術情報の交換のために極めて重要なものとなっていることは、2009年の第1回から回を重ねることに参加者が増えていることから明らかです。

日本塑性加工学会会長 吉田 総仁氏



日本塑性加工学会は、鍛造、板金プレスをはじめとした塑性加工の専門学会として52年の歴史を持ち、13年3月末で3451人の会員と356社の賛助会員を有しています。

MF Tokyo 2013では、24、27日の4日間、開催される本学会のテクニカルセミナーが開催され、そこは本学会および企業で最先端研究に携わっている研究者が、ハイテン、マグネシウムなど種々の材料の最新加工技術(板金、鍛造、ホットスタンプ、レーザー加工など)、加工(AE)などを紹介いたします。

同じく4日間、開催される本学会研究室発表会では塑性加工に関する成果発表など、30講演を行います。また、大会が18研究室、高専が1研究室、展示ブースを設けます。こうした場を通じて、情報交換が活発に行われ、産学連携の共同研究などが新たに作られていることを願っています。

本学会では、産業界に役立つ研究成果の発信、産学交流の場の提供などの活動を一層強めていくつもりです。よろしくご理解ご支援のほどお願い申し上げます。

海外市場での競争力向上

日本鍛造協会会長 後藤 充啓氏



「MF Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」が盛大に開催されるにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。今回で3回目と回を重ねることに、出展内容も充実し、来場者も着実に増えてきております。これは誠に喜ばしく存じます。

わが国の鍛造業は拡大する海外市場での競争力を求められており、業界を挙げて競争力強化に取り組んでおります。日本が誇る高い生産性や高精度かつ高品質な鍛造品は、ITを駆使した鍛造機械や金型技術、各種制御技術などのさまざまな技術に支えられ、かつ

強い現場力によって作られてきた。今後さらなる競争力を高めるために、関連業界や日本塑性加工学会と連携を深めて、新商品開発、新事業開拓、海外展開などを効率的に進めて行かなければなりません。

「MF Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」におきましては日本鍛造協会の会員各社が、お客様のニーズにお応えして創意工夫で作られた特徴ある鍛造品を出展いたします。また、鍛造に深いノウハウのある、たたら製鉄の特別講演も企画しておりますので、ぜひとも鍛造ブースに足をお運びください。各社が誇る鍛造品を、ぜひとどろき、皆さまの交流の場になればと願っております。

私も日本鍛造機械工業会をはじめ、学会やユーザー、関係方面の方々の協力をいただき、鍛造業の進化発展に邁進して参ります。引き続き、皆さま方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

国際競争力と基盤の強化

日本金属プレス工業協会会長 小林 暢比古氏



「MF Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。日本鍛造機械工業会の会員企業はじめ、本展示会に出展される企業の方々に、関係各位の開催までのご努力に深く敬意を表する次第であります。

金属プレス業界においては、ユーザー企業における生産拠点の国外へのシフト化、海外調達の一層の進展およびこれに伴う国際的なコスト競争の激化などもあり、先行き不透明な状況が続いています。2012年度における金属プレスの生産額についても、第1四半期までは回復基調で推移したものの、第2四半期以降は中国における反日運動の激化、長引く欧州の研究

通貨不安、エコー補助金の終了などの要因により、内需・外需とも低調となったことから一転減少で推移しております。

一方、昨年末以降、政府の実施している経済政策などにより、為替環境、株式相場はここ数年に比較すると好転しており、当業界のユーザー産業の一部でも収益が改善しているとも聞いております。

こうした状況の中、金属プレス企業では競争力強化に向け、難加工材への対応、微細加工などの技術開発や生産の効率化などを積極的に推進し、ユーザー企業に高品質なプレス製品を提供するための努力を続けております。

また、当協会においても技術の向上に関する研究会の開催、人材教育の実施などにより、わが国の金属プレス業界の国際競争力の強化および基盤強化に努めているところでございます。

本展示会の開催は新鋭機械設備に触れ関連技術についての情報収集などを行うことができる良い機会であり、金属プレス産業の国際競争力の強化にもつながるものと考えております。関係各位のますますのご発展を祈念いたします。

良い波に乗った勢いを感じる

日本金型工業会会長 牧野 俊清氏



「MF Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」が、このたび、盛大に開催されますこと、日本金型工業会を代表いたしまして心よりお喜び申し上げます。

今回の展示会は副題として「マザーマシン」鍛造機械と塑性加工レーザー加工の技術の進化」を掲げており、大変楽しみにしております。

私も金型産業は2008年9月のリーマン・ショックによる世界同時不況の影響により大打撃を受け、その後、5年近く経過して多少回復基調の動きが伺えますが、まだまだといったところがある感ではございません。

そのような状況で昨年末に誕生した第2次安倍内閣には期待しております。ここに来てよく耳にする「アベノミクス」という言葉、公共事業、大胆な金融緩和、成長戦略の三つを「三本の矢」として実行していくこと、何か世の中が動き始めているのを感じます。当然、円安によるエネルギー値上げなど負の部分も受け止める必要がありますが、まずは将来に向けてアベノミクスに期待したいと思います。

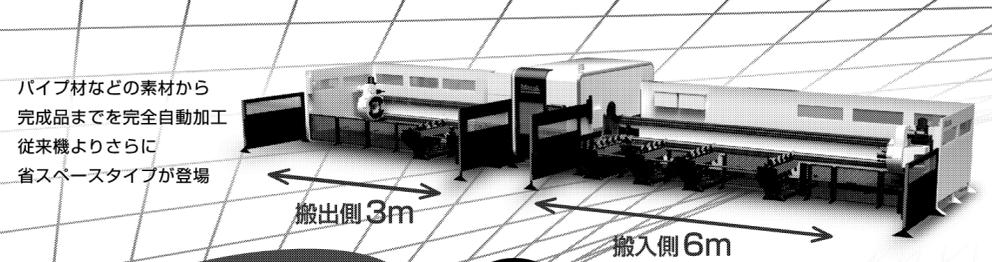
企業にとって先が見えてくる、あるいは多少でも明るさを感じなければ、なかなか設備投資を考えるとできません。そのような状況で今回の「MF Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」の開催は、非常に良い波に乗った勢いを感じます。

最後に、このたび、同展示会の開催を無事迎えることができ、また、このことをお喜び申し上げます。日本鍛造機械工業会をはじめ、関係いたしました企業皆さま方のご発展をお祈り申し上げます。

MAKING TOMORROW with Mazak 未来を切拓くレーザ工法

パイプ材などの完全自動加工や板金の自動搬送装置など未来を切り開くレーザ工法を提案します。

3D FABRI GEAR 220 MKII



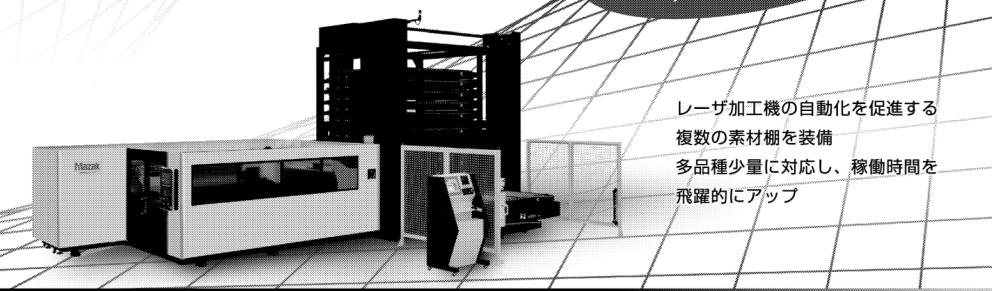
パイプ材などの素材から完成品までを完全自動加工。従来機よりさらに省スペースタイプが登場。

搬出側3m / 搬入側6m

標準機に対してフロアスペース32%減

パイプ材の自動化

板金の自動化



10段の加工テーブル搭載による自動化の提案

レーザ加工機の自動化を促進する複数の素材棚を装備。多品種少量に対応し、稼働時間を飛躍的にアップ

OPTIPLEX 3015 COMPACT MANUFACTURING CELL

次代の理想にチャレンジする、精密冷間鍛造。

自動車用冷間鍛造部品 / 高精度二次加工

精密鍛造金型

株式会社 片桐製作所

URL: http://www.katagiri.co.jp/

本社・工場/〒999-3103 山形県上山市金谷字畠谷地1453 TEL (023)679-2201 FAX (023)679-2413

超硬粒工機部/〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘二丁目1-5 TEL (023)688-1817 FAX (023)688-1816

新型鍛造プレス C2Pシリーズ

選択の自由と広がる可能性

用途に合わせて「ダイレクトサーボ」または「湿式クラッチブレーキ」二つの駆動方式から選択できる新しい発想の鍛造プレス

C2Pシリーズ4つの特徴

- 環境負荷低減
- ダウンサイジングによる省スペース化
- 製品精度向上
- メンテナンス性向上

小間番号：東1ホール E1-28